

大澤雅休展が開幕しました。14日までの9日間。



午前10時から入館できるのですが、少しのぞいてみませんか。



いつも、実行委員長が展示室のチェックに来ておられます。



では、砺波市美術館の市民ギャラリー、展示室へ行きましょう。

横額の作品からです。

大澤雅休と言えば、現代の日本書道界に墨象という新しい前衛的書により、書を芸術へと押し進めたのだが、戦中の疎開時は、古典的だったんですね。



「雨読」「業楽」



「天真」「月白風清」「吐故納新」



「七言絶句（白雲作雨多如絮紅葉驚風少似花）」

「廓然無聖」「寒巖一樹松」



「仙家樂事濃」、そして「麗風」「良俗」は、1対です。「大道無門」



大道無門の次が、「不老門前日月遲」「心清意自写」



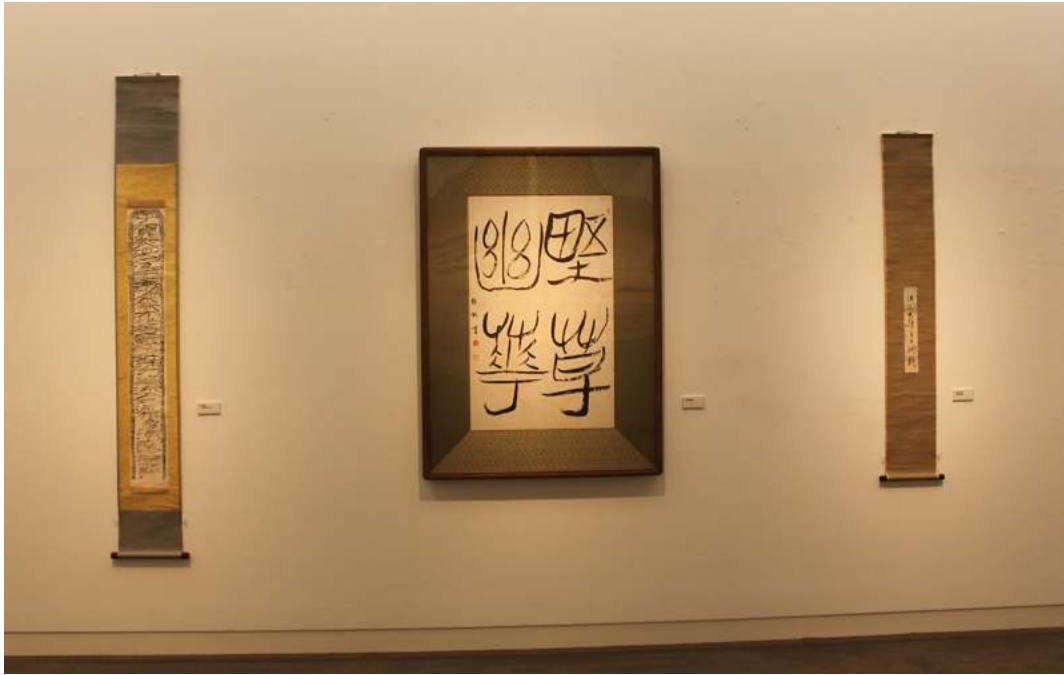
「松風有清音」 「無」 「白雲作雨多如絮紅葉驚風少似花」



「至道無難」「不忘忠敬」 ここからは、大作です。「精勵」



「散懷」 「飛天」



「おがみかわ」「野草幽華」「深山大澤実生龍蛇」この3点は、この展覧会で唯一、前衛に向いはじめた作品といえます。



そして、雅休から太田地区の有志の方への手紙が。また、展示場の中央ボックスの中にも手紙や手本等が展示されています。



今日は、突然、金沢市から玄土社の主宰である 表 立雲先生が訪れられました。入道委員長と上田先生と1時間以上も歓談されました。

お知らせ

展示会場で販売している展覧会の図録には、手紙の内容、さらに大沢雅休の手によるほぼ原寸大に拡大した空海の『風信帖』と虞世南^{ぐせいなん}『孔子廟堂碑』の臨書手本も掲載して（1,000円/冊）販売しています。

（実行委員会より）